

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1194600258		
法人名	ケアサプライシステムズ株式会社		
事業所名	グループホームしらかば		
所在地	埼玉県深谷市西島町2-21-11		
自己評価作成日	令和 5年 11月 14日	評価結果市町村受理日	令和 6年 1月 24日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当グループホームは駅から徒歩10分弱ほどの好立地にあり、静かな住宅地に囲まれております。施設内は明るくバリアフリーで車椅子の入居者様も安心して生活ができる環境と設備を整えております。また地域との関わりを大切にしたいと考えイベント行事には積極的に参加するよう心掛けております。食事は全て手作りを心掛け家庭的な温かみのあるものを提供しお祝い事にはお祝い膳を提供したり季節の行事に沿った食事も提供しております。またご利用者様が退屈することなく毎日を安心して生活できる空間として季節感を感じられるような壁面や装飾、レクリエーション活動にも力を入れて楽しい時間を過ごしていただいております。入居されている利用者様一人ひとりの暮らしや生活リズムを大切にケアを心掛けその方の意思を尊重した支援を行うよう努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/11/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社プログレ総合研究所		
所在地	埼玉県さいたま市大宮区大門町3-88 逸見ビル1階		
訪問調査日	令和 5年 12月 8日		

利用者の心身の活性化やできる事を継続できるように、レクリエーション活動に力を入れている。歌や制作物の作成などの他、体操は、DVDの利用や職員が独自にボールや新聞紙を使ったレクリエーションの工夫にて提供しており、皆で楽しく参加している利用者の姿が見られている。さらに、集団生活の中であっても、自宅にいる感覚に近づけた生活を提供している。今まで使っていた家具や好きな映像作品を持ち込んでもらい、趣味で作成していた作品等で居室を整えている。また、自分で着用する衣類を選んでもらうようにしており、選ぶことが難しい場合は、タンスに「ズボン」「靴下」等の目印をつけて自分できるように支援している。そして、好物の提供や就寝時間等は、利用者の生活リズムに合わせて可能な範囲で柔軟に対応している。そのため、利用者は自分らしい暮らしを送ることができる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	しらかば独自の理念を考え毎月の職員会議で理念の唱和をしている。また、毎日のケアの実践に取り組んでいる。	事業所理念は、管理者が職員に都度伝えている。利用者の話は肯定的に傾聴したり視線を合わせて支援をしたりする等、理念の実践に努めている。また管理者は支援等について職員にアドバイスをおこなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域のお祭りやイベントには積極的に参加させていただいております。足の悪い方や車椅子の方が多いので施設の駐車場に子供神輿が来て下さるのはありがたいです。	地域情報は、回覧板や市の広報誌等から得ている。夏祭りでは子どもみこしに立ち寄ってもらい、利用者は子どもたちと触れ合いを持たせた。今後は、コロナ禍前におこなっていた地域の集まり等に参加したいと考えている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議で認知症についての勉強会を行い、職員会議でも定期的に勉強会を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の推進会議を開催しご家族様や民生委員様、地域包括支援センターの方々等からも意見や助言を伺っている。事業所からも活動報告や現状をお伝えし情報交換をする事でサービスの向上に努めている。	以前は書面開催で、活動報告や本社からの情報等を報告していた。現在は対面で開催しており、水害時の訓練方法や以前の地域情報等の話が出た。今後は多くの家族に参加してもらい、交流につなげたいと考えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	主に本社の担当者が連絡を取り合っており必要事項を施設に共有するようになっている。	本社は運営について、管理者は報告書の提出等で行政に赴いている。行政からは、主にメールで情報や資料をもらい、入居人数の報告や運営推進会議議事録の提出をおこなうことで、事業所の実情等を伝えている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員全体で統一したケアが出来るよう職員会議やカンファレンスで話し合い事業所全体で身体拘束のないケアに取り組んでいる。欠席した職員にも申し送りをしている。	毎月研修をおこない、何が拘束にあたるか周知している。虐待の有無については、会議時に確認をしている。フロアで利用者の見守りができるように職員が連携すると共に、落ち着かない利用者に対しては、気分転換に散歩に誘ったり言葉かけを工夫したりしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体的虐待、言葉の虐待す全てにおいて職員間で声掛けし虐待のないよう意識向上に努めている。また職員会議でも取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在ご入居されている方々は成年後見制度を利用されている方はいませんが必要に応じて成年後見制度の活用が出来るよう支援していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際は必ず重要事項説明書に基づき説明をしご家族様やご本人様の不安や疑問を尋ねご理解していただいた上で契約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様が訪問や面会に来られた際にはご意見や要望を伺える機会を設けている。またご利用者様からの意見は難しい方もいるので利用者様の状態に合わせて対応させて頂いている。	家族が話しやすいように、利用者の状況を伝えて安心してもらえるようにしている。訪問回数が少ない家族の場合は電話を活用している。意見があった場合は、職員間での話し合いや、本社と相談をして反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で気付きや意見を伺い職員全体で話し合いの場を設け反映している。またユニットごとでも意見や提案を聞き反映させている。	管理者は職員との面談を定期的におこない、日常的にも話を聞いている。その時は他者に聞こえない等の配慮をしている。職員の業務の流れや勤務日の相談、行事食の内容等について提案等があり、その都度反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の士気が上がるよう毎月1回は連休をシフトに組み込んだり家庭状況に応じてシフトに無理がないよう対応している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護経験や技量に応じて法人内外の研修に出来る限り参加するよう努めているが実際は参加が出来ていない状況である。初めのうちは既存の職員と同じシフトにして働きながらトレーニングしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍の影響で他施設との交流が計れていないが今後は取り組んでいきたい。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	困っていること、不安なこと、要望等を事前に聞き取り職員間で共有してご本人様の安心を確保できるような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様が不安に思っていること、要望等を事前に聞き取りいつでも相談していただけるような関係作りに努めている。また日々のご様子もご家族様には伝えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	支援内容をケアマネさんを中心にカンファレンスを開きスタッフ間で検討し必要に応じて他のサービスの利用も含めた対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者様の得意なことを活かした作用をお願いしたり、洗濯物たたみなどの家事を一緒に行うなど支え合う関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族様が来訪された際には日頃の様子を伝えている。またご家族様と一緒に外出してもらうなど共に支え合い協力して支援を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みのご友人が来訪された際にはご利用者様とゆっくりお話ができる場所を提供している。	馴染みのある店の訪問や通院支援をしている。携帯電話使用の手伝いや、コロナ禍でも家族との関わりが途切れないように、窓越しの面会を実施し、定期的な「しらかばだより」の発行等で様子を家族に伝えている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	かるたやボール遊び、しりとりや言葉遊びなどを楽しまれたりしている。発語の難しい方や身体の不自由な方には職員が調整役になって孤立することなく支え合えるように努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了してもご家族様からの相談を伺いフォロー出来るよう努めている。		
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	各利用者様の日々の思いや意向を汲み取り把握に努めている。困難な場合はご利用者様からの情報も把握し検討している。	利用者の意向は、日頃の会話や入居時の情報を基に話をして聞いている。言葉で伝えにくい場合は、家族に確認をして把握に努めている。意向は申し送りや会議等で職員同士が共有し、利用者本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前の暮らしぶりをご本人様やご家族様から伺い職員間でも共有してサービス利用の経過の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の過ごし方や様子をケア記録に記載し現状の把握に努めている。また、体調の変化や様子も職員間で抜けのないよう申し送りを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のケアカンファレンスでケアマネさんが中心となってモニタリングを行っている。職員間でケアの内容を検討し統一したケアを行えるようケアプランを作成している。	カンファレンスに参加できない職員の意見は事前に聞き、医療職の意見も参考に参考にする。定期的にモニタリングを実施し、身体状況等に变化がある場合は、病院等から情報を収集して現状に合った計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別のケア記録に記入し申し送りノートも併用して情報を共有し実践への反映をしている。色々と工夫をしながら職員間で話し合っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	サービス内容にない気づきが生じた際には職員間でその都度話し合い検討し、既存のサービスに捉われない柔軟な支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の行事に参加したり慰問などを依頼して各自がそれぞれ楽しむことができるよう支援していたがコロナの影響により最近では中止となっていた。今後はまた再開して行きたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関の定期的な往診と医療連携の訪問によって急変時でも支援が受けられる体制になっている。往診を受けていない方はご家族様の協力のもと適切な受信が来ている。	入居時にかかりつけ医の選択ができる。訪問診療時の内容は、薬の変更や医師からの指示等、変化がある時には家族に伝えている。通院は家族対応だが、看護師から担当医師に書面で利用者情報を伝えて共有している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携の看護師の訪問が毎週あるため健康チェックや皮膚観察や体調の変化を診ていただき体調管理に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際には病院関係者との情報交換や相談を行い把握に努めている。またご家族様にも様子を伺っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	早い段階から医師と家族のムンテラを取り交わし重度化した場合はご家族様にホームとしてできる事を十分に説明し必要に応じて医師や看護師を交えてケアの方針を検討しチーム支援に取り組んでいる。	事業所の指針は契約時伝え、食事がとれなくなる等の身体変化が見られた場合、医療関係者と家族、事業所で今後について話し合う。状態変化に応じて話し合い、意向は日常的に職員間で共有している。他施設に移る場合は、書面等で利用者の様子を伝えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故が発生した際には速やかに看護師や管理者に報告し連絡できる体制になっている。会社のマニュアルはあるが職員間で技量に差が生じているため定期的な訓練をやっていききたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の防災訓練を実施している。その内の1回は消防署の立ち合いで行っている。また毎日夜勤者が火災関係の自主検査をチェックしている。	火災や水害の訓練を実施している。訓練後の振り返りをする共に、消防署からもらったアドバイスは職員に周知している。民生委員からも地域の災害情報をもらっている。マニュアルを作成し、備蓄品の用意もしている。	防災訓練を実施し、消防署のアドバイスの周知をしている。しかし、災害はいつ起こるか予測できないため、管理者不在の場合も、全職員が避難方法を身に付けていることを望みます。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々人の人格を尊重しプライバシーに配慮した声掛けやケアに職員全員で努めている。職員会議でも接遇について話し合っている。	毎月の会議やタブレット(eラーニング)による研修を実施して周知に努めている。日常の中で利用者の意思確認をし、話せない場合も声かけは常におこなっている。生活記録等は利用者の前で記入しない等の配慮をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の生活の中でご本人様の思いや希望を出せる時間を作り自己決定できる環境作りに努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様のペースを大切に希望や体調に配慮して1日1日を過ごしていただけるよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人様の好みの衣服を自己決定していただきその日の気候や季節に相応しい衣服を着て頂いている。自己決定できない方は職員が選び確認してから着て頂いている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家庭的な献立を作成しご利用者様にも好きなメニューをお聞きし提供している。また、季節感を味わって頂けるようイベント食やお祝い膳も提供している。	食材の下準備や食器拭き等、できる事は参加してもらっている。意欲的にできるように、声かけを配慮している。食事に関心を持ってもらうため季節の食材を提供し、食事の宅配も献立を選んでもらい活用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人ひとりの食事量を確認、把握して適量を提供している。水分量は1日を通して最低1ℓは確保出来るよう測定している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後声掛けをし口腔ケアをしていただいている。やり方が分からない方には説明や一部介助、全介助をして対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し一人ひとりの排泄パターンに合わせて声掛けを行っている。オムツの方は漏れのないような当て方を工夫し使用を減らせるよう努めている。	利用者に合った支援方法は、日常的に話し合い申し送りでも共有する。ズボンの上げ下ろし等自分でできる所はしてもらっている。トイレへの声かけや汚してしまった場合は、利用者が羞恥心を持たないように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維を多く含む食材を取り入れたり乳製品や水分の摂取に努めている。入浴時にはお腹周りのマッサージをして頂いたり適度な運動を行うよう働きかけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	いつも入浴出来る体制づくりをしている。基本的には各自が均等に入浴出来るよう入浴表を設定しているが、当日対象者が体調不良や外出、外泊等で入浴出来ない際は入れ替えをし柔軟に対応している。	脱衣後はタオルをかけ、同性介助の希望に対応する。次の入浴が異性の場合は確認する等、羞恥心への配慮をおこなっている。洗身時は足浴も同時におこない、ユズ湯や入浴剤を使用し利用者に喜ばれている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活リズムに合わせて自由に休息できるよう支援を行っている。季節に合わせて居室の温度や寝具を調整し安心して眠れるよう努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の情報を保管し職員がいつでも確認できるようになっている。日付や名前は職員2名以上で確認し内服の際は日付と名前を読み上げて誤薬のないよう努めている。症状の変化の際はナースに報告相談している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	モップ掛けや洗濯物たたみなどのお手伝いをしていただいている。季節ごとの行事やレクリエーションにも参加していただき散歩や外出、外気浴なども計画して気分転換の支援に努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご利用者様の希望に沿って施設周辺の散歩や買い物に出掛けている。お花見や買い物ツアーなども計画し出掛けられるよう支援している。コロナの影響でしばらく外出が出来ていなかったため再開して行きたい。	天気の良い時は、外気浴も兼ねて外でおやつを食べ、利用者に喜ばれている。家族と外食や外泊等ができるように支援している。コロナ禍で外出できなかったが、代わりに季節の歌を歌い、体や頭を使うレクリエーションを取り入れて身体機能低下の予防をおこなった。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設で預かり金としてご家族様より頂いている。希望に応じて必要な物品を購入したり買い物などの支援をして金銭管理を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族様や大切な人への電話や手紙のやり取りができるよう支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	毎日居室やホール、玄関、トイレなどの清掃を行い居心地良く過ごせるような環境美化に努めている。季節感を感じて頂けるよう季節ごとに壁面や飾り付けにも工夫している。	五感への刺激について、換気時は直接利用者に風が当たらないように配慮し、夜間居室に光が入らないように、扉の小窓に紙を貼っている。テレビが見やすいソファの位置や物品が動線をふさがないようにも考慮している。利用者と一緒に掃除もおこなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用の空間にはソファを設置し気の合った利用者様同士で談笑していただいている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れたものや馴染みの物、好みの物を持ち込んでいただきご本人様に居心地良く過ごして頂けるよう工夫している。	好きなDVDを居室で見ている姿も見られる。持ち込み品が少ない場合は、本人の描いた絵等を飾り、その人らしい居室作りを支援すると共に、心身状態に応じて、家族と相談しながら物品の調整や動線の確保をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	不要なものや導線の妨げになるようなものは避け安全に出来るだけ自立した生活が送れるよう工夫している。また、トイレや浴室には認識しやすいように表示をしている。		